

図書館へ行こう！

近ごろ少しずつ朝晩が涼しくなり、あちらこちらで秋らしさを感じられるようになりました。芸術の秋、スポーツの秋・・・「〇〇の秋」といわれるようになった経緯には、「秋はさまざまな植物が実をつける」＝「実が入る」→「(いろいろな物事に)身が入る」という駄洒落から発生したという説や、食品メーカーや出版業界がそれぞれの業績を上げるために作った宣伝文句だという説などがあるようです。

学院図書館にも読書の秋が訪れました。皆さんの秋が実り多い季節となりますよう、図書館ではたくさんの本をそろえてお待ちしております。

☆先生方おすすめの本☆

社会科 赤波江 公樹先生のおすすめ

数学科 日高 希世子先生のおすすめ



喜多川 泰著『手紙屋 螢雪篇』

～私の受験勉強を変えた
十通の手紙～

あなたはなぜ勉強するのですか？

良い大学へ行くため？

なぜ、よい大学へ行くのですか？

良い就職をするため？

あなたはなぜ仕事をするのですか？

お金を稼ぐため？

このような疑問が浮かんだことはありませんか？

なぜ勉強するのか。恐らく大人でもきちんと答えを出してくれる人は少ないのではないのでしょうか。

この物語は高校生の女の子と手紙屋と言われる人の問答を通して、上記のような人生の疑問について考えていく物語です。

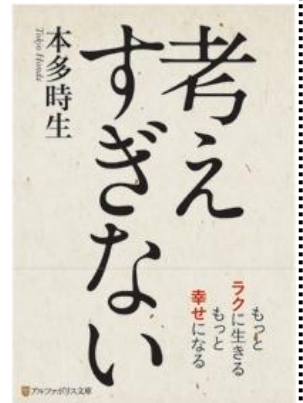
勉強に手が付かない、やる気が起きないという人、目標が定まらない人など、多くの人に読んでもらいたい本です。

本多時生著『考えすぎない』

悩んだり、行き詰まったりしたときにおススメの本です。この本を読むと、気持ちが軽くなります。そして、無理せず、自分を大切に頑張ろうとパワーがでできます。

色々なことに悩んだり、不安になったりすることがあると思います。けれど、すべては自分のとらえかたの問題なのだ気づかされました。

(本文より)『誰もが何かしらの悩みを抱えています。みんなそれを人には見せないようにしているだけです。自分がすごく悩んでいる時も、「悩んでいるのは自分だけじゃない」「自分と同じように悩んでいる人(同じ悩みを経験した人)はたくさんいる」と考えるだけでも、少しは心がラクになります。多くの悩みは時がたてば(特に何もしなくても)解消します。時が解決してくれる問題はできるだけ考えないように心がけ、その分の時間とエネルギーを自分にとって大切なことのために使えるようにしましょう。』



松尾芭蕉 (杉山杉風筆)
幼名・金作 1644～1694

図書館特別展示『松尾芭蕉 おくのほそ道展』

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり

松尾芭蕉がおくのほそ道の旅に出たのは西暦1689年、46歳のときです。

芭蕉は俳聖として世界的に知られる日本史上最高の俳諧師で、本文中に挿入された俳句六十二句(芭蕉作は五十句)は、どれも芸術性が高いものとなっています。『おくのほそ道』の全行程は約2400kmで、今の暦で五月中旬に江戸を出発し、東北北陸をめぐって十月中旬に旅を終えています。

この機会におくのほそ道の世界に触れ、その一句一句を味わってみてください。

図書館閲覧室前にて展示中。 参考) 日本古典文学辞典』岩波書店 2007

